



元和六年(一六二〇)、古城山の南側に  
城下町が建設されてから四〇〇年。

# 角館町割 400 年記念 三館合同企画展

会期: 令和2年

7.25<sub>土</sub>→9.13<sub>日</sub>

開館時間: 午前9時~午後5時(入館は4時30分まで)  
入館料: 各館無料

【会期中無休】

新潮社記念文学館のみ7/27、8/3・11・17・24・31、9/7は休館

「町割絵図と角館の学問・江戸期に生まれた伝統工芸展」

**角館榎細工伝承館**

〒014-0331 秋田県仙北市角館町表町下丁10-1  
TEL 0187(54)1700

「江戸期の絵画と角館四条派展／平福穂庵とその弟子達展」

**角館町平福記念美術館**

〒014-0334 秋田県仙北市角館町表町上丁4-4  
TEL 0187(54)3888

「佐竹北家の文化展」

**新潮社記念文学館**

〒014-0311 秋田県仙北市角館町田町上丁23  
TEL 0187(43)3333





# 角館町割 400 年記念 三館合同企画展

現在の角館は元和6年(1620)、角館城主芦名義勝によって町割されました。芦名氏は、この新天地で政治経済等の礎を築きましたが、角館三代千鶴丸が夭折し、その理想を完成させることなく終焉を迎えます。

その後、明暦2年(1656)からは、佐竹北家が所預として角館に入り、幕末までこの地を治めました。佐竹北家は、藩主佐竹宗家の分家で、一門中でも御苗字衆という由緒ある家柄です。その角館北家200年の歴史の中では、今日の角館を形成する学問や文化、産業などが誕生し、多くの優れた人材が藩政の一翼を担ってきました。

今年2020年は、町造りが始まって400年の節目に当たります。これを記念し、伝承館、美術館、文学館がそれぞれにテーマを設けて、江戸期角館に関連した資料や作品を展示します。是非、この機会に三館をじっくりと巡り、角館の歴史や文化、芸術を知る旅をお楽しみください。

## 「町割絵図と角館の学問・江戸期に生まれた伝統工芸展」 角館樺細工伝承館

一室では、現存する町割絵図で、当時の町造りの様子を探り、また角館に学問の種をまいた益戸滄洲やその薫陶を受けた学者たち、藩校明德館を創った藩主佐竹義和公等の書画を通して角館の学問の歴史に触れていただきます。

二室では、藩政期に誕生した角館の伝統工芸品から「樺細工」「白岩焼」「角館春慶」「イタヤ細工」を紹介します。



佐竹義和筆「弘道」

## 「江戸期の絵画と角館四条派展／平福穂庵とその弟子達展」 角館町平福記念美術館

「江戸期の絵画と角館四条派展」では、小田野直武、佐竹曙山、佐竹義躬等の秋田蘭画をはじめ、同時代に描かれた作品と長山孔寅、武村文海等の角館四条派の名品を展示します。

「平福穂庵とその弟子達展」では、角館四条派の流れを汲み、没後130年になる日本画家・平福穂庵とその弟子、寺崎広業、岡田琴湖、三森山静、辻九阜、竹村篁郎、西宮礼和等の秀逸作品を紹介します。



佐竹義躬筆「籠に梅図」

## 「佐竹北家の文化展」 新潮社記念文学館

佐竹北家歴代の偉業の中から、文化的な側面に光を当てた展示。京都の公卿高倉永慶の第二子として誕生した初代佐竹義隣と、三条西実号の娘を娶った二代佐竹義明時代の京風文化を「装束裂」「御手鑑」等で表現します。

また、文芸・絵画・産業等が隆盛した五代佐竹義邦、六代佐竹義躬、七代佐竹義文時代を『解体新書』『花葉集』『和歌集』などの書籍や書画、その他関連資料で辿ります。



佐竹義文著『花葉集』